

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月12日

秋田県知事 殿

提出者

住 所 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目4番33号

氏 名 株式会社 竹中土木 東北支店

執行役員支店長 坂本欽司

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 022-221-7681

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 竹中土木 東北支店
事業場の所在地	宮城県仙台市青葉区国分町3丁目4番33号
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	建設業 06総合工事業
②事業の規模	完成工事高 76億円(東北支店)
③従業員数	58人(令和07年5月1日)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1 処理工程図のとおり

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添2 管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
(これまでに実施した取組) IS014001の認証を受けて建設生産活動において環境保全の社会的要求に応えるため、環境マネジメントシステムの運用を行っている。 小梱包化による発生抑制			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
(今後実施する予定の取組) 小梱包化による発生抑制			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 作業所で分別集積ヤードを設置し、分別廃棄を行っている
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 作業所で分別集積ヤードを設置し、分別廃棄を行う

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

		【前年度（令和6年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t		t
	(これまでに実施した取組) 再生利用なし			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t		t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用なし			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

		【前年度（令和6年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t		t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t		t
	(これまでに実施した取組) なし			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t		— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t		— t
	(今後実施する予定の取組) なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

		【前年度（令和6年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t		t
	(これまでに実施した取組) なし			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t		t
	(今後実施する予定の取組) なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【前年度（令和6年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり		
	全処理委託量	t		t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t		t
	再生利用業者への 処理委託量	t		t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t		t
	(これまでに実施した取組) 委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し書面による契約を実施			

		【目標】		
		産業廃棄物の種類		別紙集計表のとおり
		全処理委託量		t t
		優良認定処理業者への 処理委託量		t t
		再生利用業者への 処理委託量		t t
		認定熱回収業者への 処理委託量		t t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>リサイクル目標</p> <p>アスコン塊 100%</p> <p>コンクリート塊 100%</p> <p>建設汚泥 90%</p> <p>建設発生木材 95%</p>				
※事務処理欄				

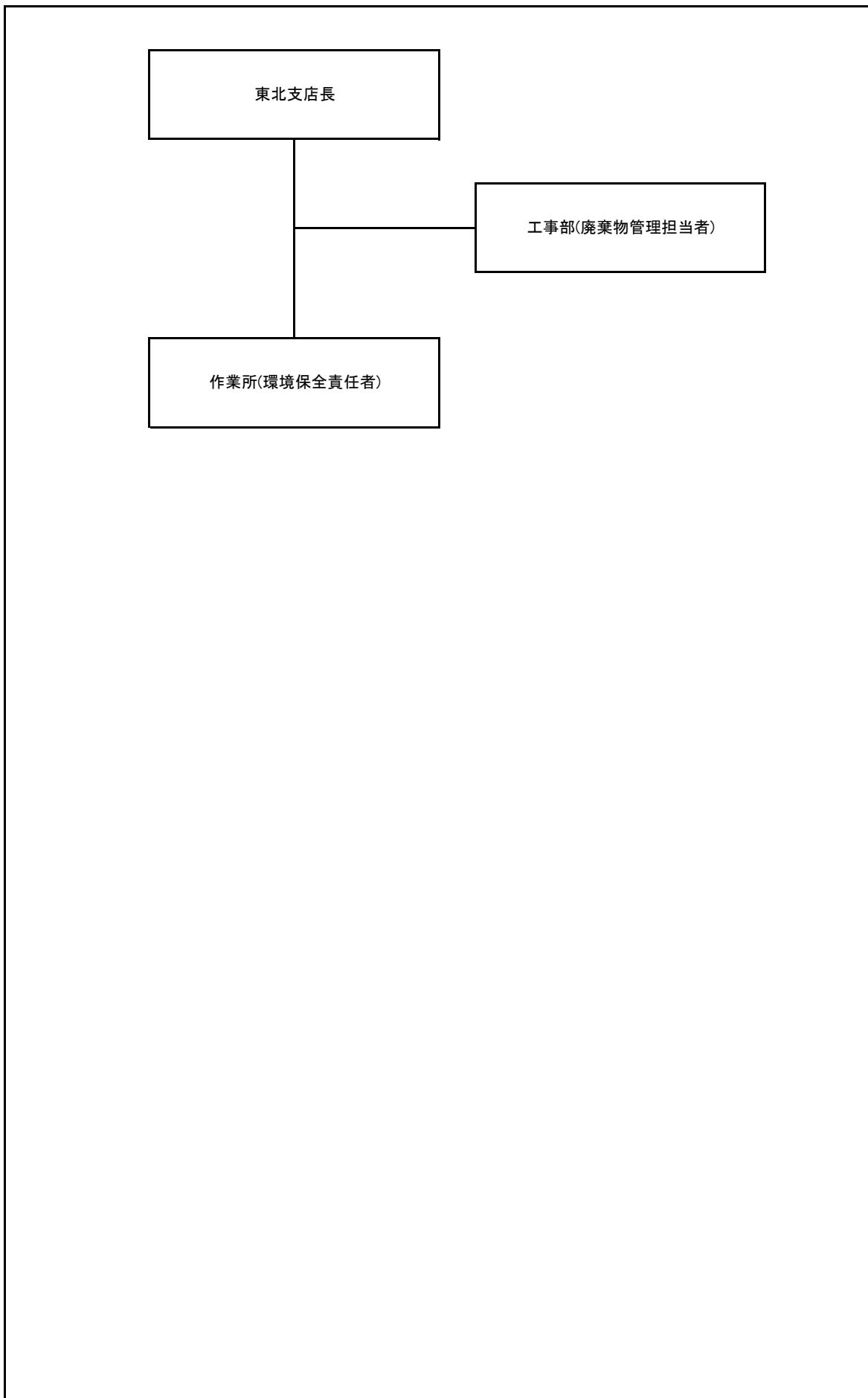
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添1 処理工程図

- ・汚泥
再生処理業者へ委託(脱水・造粒) → 改良土・再生砂として再資源化
- ・廃油
再生処理業者へ委託(遠心・油水分離) → 燃料油として再資源化
- ・廃プラスチック類
再生処理業者へ委託(破碎・圧縮) → プラスチック原料・固形燃料として再資源化
- ・紙くず
再生処理業者へ委託(圧縮・梱包) → 固形燃料として再資源化
- ・繊維くず
再生処理業者へ委託(圧縮・梱包) → 固形燃料として再資源化
- ・金属くず
再生処理業者へ委託(破碎・圧縮) → 製鉄原料として再資源化
- ・ガラス・陶磁器くず
再生処理業者へ委託(選別・破碎) → 骨材等として再資源化
- ・石膏ボード
再生処理業者へ委託(破碎) → 土壌改良材・セメント原料として再資源化
- ・その他がれき類
再生処理業者へ委託(選別・破碎) → 骨材・路盤材として再資源化
- ・コンクリートがら
再生処理業者へ委託(破碎) → 骨材・再生碎石として再資源化
- ・アスコンがら
再生処理業者へ委託(破碎) → 骨材・路盤材として再資源化
- ・安定型混合廃棄物
再生処理業者へ委託(選別・破碎) → 各々分別し再資源化
- ・管理型混合廃棄物
再生処理業者へ委託(選別・破碎) → 各々分別し再資源化
- ・石綿含有廃棄物
最終処理業者へ委託(破碎) → 管理型埋立
- ・廃石綿(アスベスト)
最終処理業者へ委託(破碎) → 管理型埋立

別添2 管理体制図



産業廃棄物処理計画書 別紙集計表

現状:前年度(令和6年度)実績量

計画:今年度(令和7年度)計画量(目標)

単位:トン